

【第1回会議録】安中市役所庁舎・防災拠点センター建設基本計画策定市民会議

| | |
|---------------|--|
| 開催日時 | 令和4（2022）年2月16日（水）午後6時30分から午後9時5分まで |
| 開催場所 | 安中市役所本庁舎3階 第305会議室（安中市安中一丁目23番13号） |
| 出席委員 （敬称略） | 北野敦則（会長）、金井昌信（副会長）、川端洋介、萩原豊彦、筑井秀夫、吉田茂、神戸友子、久保智美、中島勝美、上原徹、佐藤雅人、金井弘恵、中山伸子、上原将太、瀬下由美子、黛若葉、嶋田有美子（計17人） |
| 欠席委員 （敬称略） | 宮川直子（計1人） |
| 事務局等 | 栗野副市長 [安中市資産活用課庁舎建設室] 町田企画経営部長、有阪室長、金田主任、野川主事 [株式会社石本建築事務所] 管理技術者、建物総合主任技術者（計2名） |
| 傍聴者 | —（まん延防止等重点措置期間中のため傍聴不可とした） |
| 会議次第 | 1 開 会 2 市長あいさつ 3 委員自己紹介 4 会長・副会長の選出 5 会長・副会長あいさつ 6 議 事 （1）市民会議設置要綱、会議の運営等について【資料No：1.2.3.4】 （2）庁舎建設に関する取組経緯説明【資料No：5.6】 （3）設計事務所の技術提案説明【資料No：7】 7 その他 （1）次回の会議日程について 日時：令和4年3月24日（木）午後6時30分から 会場：安中市役所本庁舎3階 305会議室 （2）近隣自治体庁舎の視察について 8 閉 会（午後9時5分） |

<会議要旨>

1 開 会

午後6時30分から開会した。

2 市長あいさつ

・安中市長 茂木英子より次のとおり、ご挨拶申し上げた。

本日は、初めての「安中市役所庁舎・防災拠点センター建設基本計画策定市民会議」ということで、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

また、まん延防止等重点措置が延長されてその期間中での開催となってしまったこと、ご理解いただきご参加くださり誠にありがとうございます。

市より市内関係団体にご参加をお願いしながら、公募市民委員の皆様や、専門家の先生方にも加わっていただき、計18名の委員の皆様にお集まりいただきました。重ねて御礼申し上げます。

さて、この安中市役所の庁舎ですが、築60年以上経過している部分と、50年以上経過している部分とで継ぎ足して作っています。耐震診断結果はDランク、Cランクでありまして、放っておくわけにはいかない。東日本大震災や熊本大地震などを拝見していて、市役所庁舎が一部崩壊や倒壊等になってしまったら、災害対策本部、市民の復興・復旧への対応が遅れてしまうことへの危機感がありました。市長就任当初は庁舎にあまり関心がなかったが、これを放っておくわけにはいかないということ、それから旧安中市と旧松井田町で一市一町が合併して今のまちがあり、その合併市町村ができる合併特例債という、借入額の約66%を国が面倒を見てくれて、市の負担は34%くらいで良いという有利な借金があり、使える期限にまだ間に合うと聞きました。

そこで、庁内事前準備組織で情報収集をしたり、安中市庁舎に関わる市民懇談会で市民の皆様にご議論いただいたり、市議会では2年近く議論をしてきました。これらを踏まえながら私も市民アンケートを取り、多くの方に庁舎について考えていただきながら今日に至っており、そういったご意見、ご要望を踏まえて、昨年10月に基本構想を策定しました。

コンセプトは、市民の命を守る「危機対応型庁舎」として、あらゆる危機から市民の命を守り、また未来を担う子どもたちの防災意識を高める庁舎、普段は防災啓発や市民活動の活性化や市民の憩い・触れ合いの場となる庁舎としながらも、建設費は可能な限り抑え、将来を見据えた柔軟性や、SDGs、環境配慮、ライフサイクルコストの低減などを検討していく、そのような思いが詰まった構想書ができました。

庁舎建設は歴史的な事業となりますので、たくさんの市民の方に関わっていただきたい、関心を持っていただきたく、構想書に基づき市役所庁舎はどのようにしたらよいのか、どのようにしたら市民の皆様が誇りを持てる庁舎となるのか、この先々を見据えていけるのか、自由にご議論いただきたく、このような場を設けさせていただきました。皆様のご意見をお聞きしながら、共に庁舎建設の基本計画を作り上げていきたいと考えております。

また、計画を進めるに当たって思うことがあり、安中市は中山道を背骨として東西に長いのですが、安中市役所の本庁舎を防災対策のしっかりとしたものとしていくことにあわせて、松井田庁舎にはご不便を感じないように、しっかりと住民サービス機能を残し、更に充実できるかもしれません。中山道の歴史がたくさんある地域であり、宿場が4つあるのは珍しいことであるし、日本三大奇勝の妙義山をバックにしていたり、松井田城址が残っていたり、碓氷峠には国の重要指定文化財となっているめがね橋を軸とした鉄道遺産群など、松井田地域は歴史、文化の宝庫である。松井田庁舎はそういったものの拠点として更に発展していけると思っており、安中のまちづくりという観点からも庁舎を考えていきたいと思っております。

なによりも皆様にご議論していただき、この安中市役所庁舎が、これまでの市民とこれからの市民にとって誇りと思える庁舎になってほしいという思いがあります。ぜひ^{かっ}闊達なご議論をいただきたいと考えておりますので、貴重なお時間を使って来ていただいておりますが、これからもどうぞよろしく願いいたします。大変お世話になります。

3 委員自己紹介

名簿の順に、一人ずつ自己紹介を行った。自己紹介終了後、市長退席。

4 会長・副会長の選出

北野敦則委員が会長に、金井昌信委員が副会長に選任され、承認された。

5 会長・副会長あいさつ

会長、副会長の順に一言ずつご挨拶をいただいた。

6 議 事

(1) 市民会議設置要綱、会議の運営等について【資料No：1.2.3.4】

[事務局説明]

- ・会議録の作成方法と、傍聴者の可否、手続等について、「資料1 市民会議運営方法(案)」のとおり説明した。
- ・市民会議を設置した目的、役割、任期等について、「資料2 市民会議設置要綱」のとおり説明した。
- ・全5回の会議開催を想定した上で、市民会議の進め方について、「資料3 調査・検討フロー(案)」のとおり説明した。なお、近隣自治体の視察については、コロナ禍により受入れ先が決まっていない。イメージしやすいよう実際の庁舎をご覧いただきたい考えであるが、調整の末、各回を前後したり、視察に行けない場合もある旨を説明した。
- ・全5回の会議開催を想定した上で、実施時期について、「資料4 開催スケジュール(案)」

のとおり説明した。

[委員意見・質疑応答]

会長：庁舎の建設に当たっては、この後、基本計画、基本設計、実施設計と進み、建築確認申請を経て、工事に着工することになる。建物の仕様や、構造は先の話となり、現在基本計画策定の段階では、建物の機能として何を入れていったら良いかというご意見をいただければというものである。

委員：近隣自治体の視察の候補地はどこか。

事務局：受入れ先の状況にもよるが、現時点では近隣の富岡市、石本建築事務所が手掛けた小諸市を候補としている。

委員：会議スケジュールが短く、スピード感をもって検討を進めるのは良いが、考えるための前提となるデータや資料の提供が必要である。

事務局：この後、石本建築事務所の技術提案等を紹介したり、委員の皆様と情報共有していく。タイトなスケジュールとなるが、ぜひご協力いただきたい。

会長：今回これまでの市の取組の経緯や基本構想の説明、石本建築事務所の技術提案等をこの後予定しているようなので、それを踏まえて次回、議論できるとよい。それを踏まえて、石本建築事務所に新たな提案をしてもらえればと思う。

(2) 庁舎建設に関する取組経緯説明【資料No：5.6】

[事務局説明]

- ・庁舎建設に関する取組の経緯について、「資料5」のとおり説明した。
- ・安中市役所庁舎・防災拠点センター建設基本構想（資料6）について説明した。

[委員意見・質疑応答]

会長：建設場所は、基本構想において決定済みで、これからは庁舎の規模や付帯機能について委員の意見を伺いながら、より良いものを作っていくとのことである。スケジュールについては、合併特例債が使用できる令和8年3月までに建物の完成を目指しているためタイトであることも考慮しながら意見をいただくとのことである。

副会長：市民の皆様の防災意識が低い前提で考えると、司令塔と現場を近づけて危機対応型庁舎とするのであれば、一番大切なのは住民を庁舎に近づけないことだと思う。市役所に住民が避難してくると、その対応をしなければならぬ職員の手を煩わせるだけである。遠くで困っている人の支援をしなければならぬのに、避難者を無視できないので、そのための人員を割かなければならなくなる。そうすると危機対応型として目指すべき姿とは真逆になってしまう。庁舎の建替えによる防災拠点としての機能充実だけでなく、庁舎は避難所ではないこと、避難所は役所職員ではなく、避難住民が協力して運営すべきであ

ることなどを市民に周知するための平時からの防災教育とセットでやるべきである。

事務局：今回のご指摘のほか防災機能として何が最優先なのか、この市民会議の中で、意見集約できればと考えているので委員の皆様にはよろしく願います。

会長：災害体験していないと想像できないことも、専門的な意見などいただきながらすすめられれば良いと思う。

委員：旧安中高校跡地が三か所から出入りできるとのことだが、東側道路はかなり狭い。南側道路も狭い。緊急車両の通行などを想定して、道路を拡幅する計画などがあるのか。

事務局：いずれも4メートル幅員ほどで大型車両の通行が難しいので、庁舎建設に併せて、外構も検討していく。

(3) 設計事務所の技術提案説明【資料No：7】

[設計事務所説明]

・資料7のとおり設計事務所から技術提案について説明があった。

なお、資料は、安中市から提示された限られたテーマ・条件に基づいて、考える上でのタキ台として議論をすすめ、まとめていくための参考案として作成したものである。庁舎建設の全体像から今回の基本計画でこれから検討すべきであり、庁舎の機能面は市民会議や市民ワークショップにおいて議論していくことを前提としている。

[委員意見・質疑応答]

委員：トイレはエントランスから近い位置にあると良い。

設計事務所：進めていく中で市民が使いやすい位置に配置できるよう計画していく。

委員：現在地に何を残し、建設場所に何を持っていくかの区別はできているのか。

事務局：現在地にある機能は、全て新しい庁舎に移転する想定である。その場合に現在地の新庁舎や保健センターの活用方法は、別途考えていく課題となるが、西毛広域幹線道路に近接することから賑わいが創出できる施設とすることなども考えられる。

会長：現庁舎を上手く活用することで、機能を新しい庁舎に持っていわずに現在地に残しておいてもよいのでは、という議論はあってもよいと思う。

委員：チャレンジショップはあった方がよい。市内に波及していき、創業がしやすいまちになるとよい。下仁田町にあるチャレンジショップは3万円くらいで賃貸していたはず。他自治体で10万円くらいもあった。チャレンジショップは、何店舗くらい入れる想定か。また、業態は飲食を想定しているか。職員用の食堂は入るのか。

設計事務所：案として示してあるチャレンジショップやカフェなどは、本当に入れられるのかどうかから、検討するのが良い。市民の皆様からの税金で建てるものなので、庁舎の機能と結びつくことを入居条件とするなど、庁舎に付帯すべきと位置づけられるか、この中で議論していけると良いと思う。職員食堂は、市からの条件として定められていなかったが、売店、カフェぐらいが良いのでは、と提案では考えた。

会長：職員食堂は、職員が必要とするかどうかと、市民の方も利用しやすいかどうか、を含めてこの場で議論できて良いと思う。

委員：緊急車両駐車スペース 30 台、災害用テント 15 張のみで、足りるのか。また、東側と北側の駐車場は、通常業務用なので、避難者を含めるのは難しく、17,000 m²の新しい庁舎敷地に災害対応スペースを入れるのは無理があるのではないか。災害対応には現在地のスペースとの連携を考えなくてはならない。コの字型の大庇の下がガラス張りだと採光やデザインは良いが、暑いのではないか。現実的な使い勝手が気になる。

設計事務所：一番重要なのは災害時に庁舎がどういう機能を果たすべきかしっかりとこの会議の中で、確認を取っていくことである。一番は、災害対策本部の機能を果たすことで、避難所ではない。どこまで物資を引き受けるかなどにより、どの程度の駐車場台数が必要か、を検討していくものと思う。災害時には広場全体を災害対策活動に使っていく想定。積極的に避難者を受け入れるのかどうか、計画の中で位置づける。市民の皆様が庁舎が災害時どのような役割なのかしっかりと認識してもらうために、日常的に市民の方に来てもらい知ってもらうことが重要と思っている。庇の下のガラス張り部分は、エネルギー計画上有効な部分に、壁を作ったり、風通しのために窓とすることは具体的な計画で検討する。雨の当たらない半屋外スペースが日常的にも災害時にも機能すると考えているが、張り付く機能がどこまで現実的かはこの中で議論をしてもらいたい。

委員：助ける側と助けられる側が同じ場所に集客されるのは難しいと考えている。屋上ヘリポートが災害拠点として機能するか疑問がある。庁舎のコンセプトをこれから足していくのは難しいが、必要ない部分は削っていくべきと考えている。

設計事務所：災害拠点と避難所を同居させることは難しいと認識している。そうはいつでも庁舎に避難してくる市民はゼロではないと思う。追い返すことはできないので、いつでも避難できる場所は考えていきたい。

委員：市役所の中に一人でも入れるとたくさん人が来るようになるので、入れないなら入れない、受け入れるなら何人までか決めておいた方がよい。市役所の職員は避難所に行かないといけないので、庁舎に来た人にまで手が回らないと思う。防災学習機能は良いと思うが災害時のことも全体的に考えて、庁舎の作り方を考えた方がよい。

設計事務所：災害時と平常時はセットで考えるべき。もしもでなく、必ず起きる前提で計画に取り組んでいく。一人も受け入れないかどうかは、市民会議で議論していただき、その結果で計画をまとめていく。ゼロにできないのであれば、庁舎の中まで入れないように仕切られた場所を設けて避難スペースとする運用も可能ではないかと考えられる。

会長：防災拠点として庁舎に避難者を受け入れるかどうか、ヘリポートの要否などは市民会議で議論して、最終的に決まった機能で新しい庁舎を作っていく。現在地の利活用方法の考えが、まだ市にはないようなので、例えば、思いつきだが、現在地を避難所にする、ヘリポートを設置するなど、現在地の土地利用を含めて議論して、新しい建設場所の機能を決めていけると良い。

事務局：時間の都合もあるので、現在地の利活用は別途協議していく。市民会議ではそこに引き継ぐ形として案をまとめていただくことが考えられる。

委員：テニスコート部分の利用案はあるか。防災拠点、という名称だと避難所と混同する。防災指令、という名称の方が紛らわしくない。

事務局：テニスコートの利用方法は決まっていない。このような防災以外の部分についても市民会議の中で議論いただき、設計事務所と協働してまとめていきたい。

副会長：防災の予算、補助金を付ける都合だと思うが、防災拠点の言葉を使うと、ほとんどの人は避難所とってしまう。東日本大震災の際も、津波の際は避難所でないこと周知した上で、防災センターの名称で建てた建物に住民が避難してきてしまい、多くの方が犠牲となってしまった事例がある。その意味で名称はかなり気を付けた方がよい。その一方で、安中市で想定される災害は、水害か地震で津波はない。地震の場合、避難してくるのは被災後なので、庁舎に避難してきた人は、別の避難所を案内すればいいし、水害の場合も、外の様子が移動可能な状況であれば、別の避難所を案内すればよいが、周辺で浸水が始まっている状況であれば、一時避難場所として安全を確保してもらい、浸水が引いたら別の避難所に移動してもらえばよいので、そこまで心配する必要はないかもしれない。ただ最初から庁舎を避難所という位置づけにはしない方がよい。なお、6万人程度の安中市の人口規模であれば、庁舎の敷地内に緊急車両が30台も同時に停車されることはほとんどないのではないかと。どちらかというところ多くの関係者が大型車両で災害対策本部に報告に来るので、出入りが激しいことを考慮した方がよい。つまり敷地内外の緊急車両の動線の確保が重要。狭い街路には車両を出せないで、平時は別として災害時には一方通行化するなどの対応が必要である。

また防災ラボに来て欲しいなら、防災に関心のない市民をターゲットとしてどうしたら来てもらえるか、市民と一緒にしっかりと議論するべき。でないとハコだけ作って、誰も来なくて、数年後には倉庫に変わることが目に見えている。ラボの集客が難しいのであれば、意識しなくても、来庁者に防災情報が目に入るようにしたら良いと思う。

そもそも私は市役所には行きたくない。面倒くさい手続に来るだけなので、短時間がいいし、住民票や確定申告などオンラインで済むなら、来なくて良いようにしてほしい。これから増える人口はオンラインで何でもできる人。今は窓口も駐車場も必要だが、10年、20年後、市役所窓口ありきでない時代がすぐ来る。時代の要請からすれば、カウンターはこんないらぬのではないかと。

会長：市役所でもデジタル化がすすんでいて、ほとんどの人は市役所にいなくても事が済むようになっている。そのような先進事例がみられるように、次回視察を予定していたようだがコロナ禍で行けないようである。それらの取組について次回会議に資料提供などは可能か。

事務局：資料提供できるよう準備する。

会長：ワンストップサービスなど色々な取組があると思うので、それらも含めて議論していきたい。

委員：設計事務所の実績の香川県観音寺市庁舎も耐震性・安全性の不安から建て替えたそうで、防災拠点となる施設として免震構造を採用し、自家発電設備や受水槽整備、災害用トイレなど参考になった。東日本大震災の時はガソリン不足があったし、電気自動車の充電などエネルギーインフラの場として活用するのもあると思う。2年前の台風19号で初めて避難した人もたくさんいると思う。防災について、今回会議で初めて知ったこともあったので、適切な情報が正しく市民に伝わっていくと良い。市庁舎がきっかけとなり、防災意識が波及していき、安全安心につながり、安中市に移住する人が増えると良い。

新庁舎、新会社、新工場など、新たに建設する建物に、防災機能を入れるというのは全国的に多いのか。

設計事務所：これから庁舎を検討する場合には、防災機能がない庁舎は、今は考えられない。庁舎に避難所機能を併用させるのはほぼない。基本的には災害対策本部として指示する機能が原則である。避難者を受け入れる場合に「いつとき」、一晩だけなどの最小限の機能だけはどこでも必ず備えていると思う。この庁舎が違うのは、防災学習まで含めて、防災拠点の機能を考えている点で、どう市民に伝えて、実現していけるかが重要なポイントであると認識している。

7 その他

(1) 次回の会議日程について

事務局より、次第のとおり次回会議の日時、会場を連絡した。

(2) 近隣自治体庁舎の視察について

事務局より、コロナ禍により受入先の目途が立っていないが、視察が可能な状況になったら、別途連絡する旨、連絡した。

8 閉 会

午後9時5分頃に閉会した。